

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成21年3月号

編 集 大井 利夫
発 行 人 〒102-8414 東京都千代田区一番町13-3
社団法人 日本病院会 通信教育課
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)
URL <http://www.hospital.or.jp>
受付時間 9:00~17:00
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)
発 行 日 毎月1日
定 価 1部 150円 1カ年1,600円(送料共)
郵便振替 00190-5-396045
名 義 社団法人 日本病院会 通信教育部

病院業務の中核機能と診療情報管理士

八 幡 勝 也

産業医科大学 産業生態科学研究所作業病態学 准教授
福岡会場 専門課程(医療情報学) 講師

はじめに、本誌に寄稿させていただきます。

いきなり唐突なタイトルで、不思議に思われたと思います。

私は、臨床医、大学の教員として仕事をしているばかりではなく、産業医として一般企業にいたこともありますし、現在でもお付き合いさせていただいています。

その企業では大小にかかわらず、業務の責任者、つまり業務の中核機能というのが実質的にあります。小は親方から、大は業務管理部といった組織もあります。業務の流れ、品質、トラブル対応といった複数の工程全体を俯瞰して、作業手順の改善、部門間の調整、品質向上、トラブルの原因探索、コスト管理そして最終的には全体最適を目指します。

さて、病院では、中小病院ならば病院の院長が実質的に担っていますが、院長が高級雑用係になっている面があります。一方、大病院では、個々の部門の独立性が高く、互いの調整が難航します。

現在の病院にはいろいろな機能を求められています。しかし、それを遂行するための責任部署というのが明確ではありません。何かあると、委員会を立ち上げて各部門から代表者を集め、協議して対応を決める、という形が殆どです。よって、感染小委員会、医療事故委員会など数多くの委員会があって、集まったものの、何を協議するのかよく分からないことが多いと思います。しかも、決定者がいない、責任者がいない、実施者がいない、というのが実状のようです。

そこで、部門横断的な業務の責任者もしくは部門を明確にすることを提案します。機能としては、病院全体の日々の状況、各部門の業務の流れ、物の流れ、部門間の連携、情報管理、医療事故などの把握、さらに部門横断的な企画です。今の状況で言えば、調達、業務事務・会計、情報システム、診療情報、医療安全、企画などを一括して、さらに臨床的な能力を追加した形です。

そして重要なことは、兼任ではなく専任でしかも活動経費と権限を付けることです。できれば、多くの部門を経験した看護師、事務、診療情報管理士などの複合的な人材によるグループであることが望ましいと考えています。

このような体制を整備することで、診療情報管理士を初めとする各種のスタッフの位置づけがより明確になり、能力が発揮されるのではないかと考えています。